

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470800713	事業の開始年月日	平成15年9月1日
		指定年月日	平成15年9月1日
法人名	有限会社 山口商事		
事業所名	グリーンペペ		
所在地	(236-0026) 横浜市金沢区柳町16-15		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	6名 ユニット数 1 ユニット
自己評価作成日	令和4年2月12日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

高齢者の多くの方々が高齢者としてきた暁や障子、庭のある環境での生活を継続し「居心地の良い『家』」での生活となるよう支援しています。成年後見制度を活用し司法書士と連携を図っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で運営推進会議を定期的に開催できていませんが、ゴミ集積所の清掃等で地域の方々と繋がっています。また、区内グループホーム連絡会を通じ満床の場合入居希望者を他のグループホームに紹介する等連携強化を図っています。今まで同様ご家族さま、協力医療病院、主治医、訪問看護ステーション、薬剤師、歯科医師、歯科衛生士等と連携を図りターミナルケアに対応しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月28日	評価機関 評価決定日	令和4年5月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京急線「金沢八景」駅から16号線を横須賀方面へ、平潟湾と侍従川に囲まれた住宅街にあり内部を改装し6つの居室にした和風2階建てで周囲に溶け込んでいます。庭も広く自然豊かで高齢者に馴染みむむ仕様で家族的なかかわりを大切にしています。

<優れている点>

開設当初からの理念を掲げ、全職員で自己評価を行い、自治会への加入、運営推進委員会の実施、看取り体制の整備などでサービスの向上に努めています。理念の「居心地のいい家」は健康な身体の維持ばかりでなく、セラピー犬との生活、傾聴ボランティアの活用など、精神面での居心地の良さ、即ち気持ちの安定した生活が送れるよう努めています。限られた人と同じことの繰り返しの生活が、スタッフ以外の外部の人とかかわり、異なる視点での話ができることは新鮮で大切なものとなっています。小さなグループホームですが無理せず状況に合わせてできることを行っています。「きっとできそうにないだろうから」と代わりにやっってしまう、しっかり向き合い、入居者が互いに役割を持ち一緒に暮らしています。

<工夫点>

職員と話しやすい関係を保ちながら、でも言いにくいことがあるだろうと意見箱を勧め、入居者同士の役割を見守る人間関係重視の姿勢が取られています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グリーンペペ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設当時から「居心地のいい家」「人間関係の深化」を理念に掲げています。ミーティングで理念を確認し合い理念の共有化に努めています。入所前までの地域との関係性が崩れないように配慮をし、理念に基づいたサービスの実践を心掛けています。	理念は分かり易くパンフレット他の文書にし伝えています。常に職員が自分のことと考えるよう、目につく所に掲示し、ミーティングでも唱和しています。「居心地のいい家」は入居者の身体ばかりでなく精神に及ぶようにコミュニケーションに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の方達と交流を深められるよう配慮しています。散歩中の立ち話であったり、ゴミ集積場の掃除、回覧板をまわす等、地域の一員として考えて頂けるよう交流を続けています。	入居者は、回覧板を回したりゴミ集積場清掃をスタッフ同行で行っています。散歩中の挨拶や頂き物のお礼など周辺の人とかかわっています。町内会の行事はコロナ禍により開催がなく、参加できていません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方から介護サービスの相談をいつでも受けられる体制をとっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で運営推進会議は書面開催となっています。	活動報告書に沿って話し合いを進めています。身体拘束廃止委員会も兼ね、身体拘束の事例を取り上げ話し合いをしています。コロナ禍では書面での開催となりましたが、構成員との互いの顔が見えるような話し合いができるよう努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	金沢区の担当の方や、他区からの入居者もあるので関連部署と連絡を取り合い協力関係を維持しています。	金沢区の高齢担当者とは施設内での変化の都度連絡しています。生活支援課とは入居者の家族や知り合いの人との関わりなどの対応も相談してケアに活かしています。様々な相談や連携は記録に残しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を行い職員全員が学んでいます。ミーティングではマニュアルや指針を活用し日々のケアの内容を確認し合っています。運営推進会議は身体拘束廃止委員会を兼ねており身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束の研修では業務日誌、個人介護記録を参照してケアの内容を具体的に確認しています。不適切なかかわりについては入居者の身体チェック、職員への聞き取りを行い、家族に報告しています。開かれた会議を目指して身体拘束委員会は運営推進委員会でを行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を行い職員全員が学んでいます。ミーティングではマニュアルを活用し日々のケアの内容を確認し合っています。また、常に意識できるようにポスターを掲示して虐待防止に努めています。	高齢者虐待防止に関する資料や教材を用いた研修を行い、虐待防止に努めています。職員一人ひとりチェック表での確認とサインをしています。虐待を見た時の対処法や不適切ケアが疑われる事例を検討するなど学ぶ機会を設けて防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行い職員全員が学んでいます。成年後見制度の活用は都度検討し活用できる支援を行っています。（現時点での活用者はおりません）		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の前に施設見学やサービスの内容の説明を行なっています。契約時には契約書と重要事項説明書等の読み合わせをご家族様と一緒にいき、質問を受け、回答させていただき、理解・納得を図った上で署名・捺印をいただいています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置しポスターも掲示しています。重要事項説明書には意見を受付ける場を記載しています。契約時にご家族様に運営推進会議の説明をさせていただき参加をお願いしています。	入居前に運営推進会議の説明を家族に行い、自主的参加をお願いしています。和やかな雰囲気のもと「あしたい」「こうしたい」などの意見や要望を聞く機会としています。入居者の散歩、入浴、食事時間など、日々の生活の要望も気兼ねなく自然に話ができるよう配慮に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	玄関に意見箱を設置しています。職員の意見や提案を日頃から聞き取り業務に反映させています。ミーティングには運営者も参加しています。	管理者も日常より一緒に業務につきながら職員からの話を聞き、提案も受けています。そのうえで他の職員の意見も加味して取り入れるようにしています。直接言いにくいこともあると想定して職員にも意見箱を利用することを勧めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	美容師資格のあるスタッフに利用者のカットをしてもらったり個々の能力・個性・得意なことを發揮し、意欲的に業務に取り組めるように配慮しています。スタッフの希望を考慮しシフトを組む、空気清浄機の新調など環境整備に努めています。	職員の生活環境を踏まえて希望を入れたシフト作成をし、全体のバランスにも配慮しています。職員の特性や個性を把握しています。歌好きな職員、散歩が得意な職員など、得意な事をケアに活かせるよう育成に努めています	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新型コロナウイルスの影響で外部の研修参加は少ないですが、今年度はガイドヘルパーの資格を取得した者がおり、働きながらのスキルアップを目指す職員に支援体制をとっています。	研修やイベントについて職員の家庭環境を配慮して年間計画を作成していません。少人数の職場で難しい状況の中でも有給休暇が取得できるようにしています。働きながらスキルアップを図る職員には支援する体制を取っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	利用者を含めた交流はコロナウイルスの影響で行っていませんが区内グループホーム連絡会を通じ情報交換や空き情報の共有等でサービスの質を向上できるよう取り組んでいます。他区のグループホームとも情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談があった時点で業務日誌に記入しスタッフ間で情報の共有化を図っています。入居までの間に1回はご本人様と面談させていただきお話を伺っています。見学時には階段昇降機に乗っていただくなど安心を確保するための関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談があった時点で業務日誌に記入しスタッフ間で情報の共有化を図っています。入居までの間にご家族様と面談させていただきお話を伺っています。担当のケアマネージャーさんやケースワーカーさん、相談員さんからも情報収集を行い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況に応じてアドバイスをさせていただいています。当ホームで対応が困難な場合等は、ご本人様とご家族様の意向を尊重し、空き情報を確認したうえで他施設を紹介したり担当のケアマネージャーさんと再度入居に関して検討していただく等の対応をとっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事や散歩、レク等を一緒に行うことで喜びや楽しみを分かち合い、人生の先輩として対話しながら信頼関係を築くようにしています。特に入浴と散歩は1対1でゆったりと時間のとれる時間なので大切にしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	意見箱を玄関に設置し意見を求めています。面会に来所された際にはご本人様ともスタッフともゆっくりと話す時間を設けており、今何がご本人様に必要かを一緒に考えながら関係を築くよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様やご親戚、友人等、馴染みの方々が気軽に来いただけるよう、ご家族を介してやホームからも電話連絡、手紙などで今までと変わらないお付き合いをお願いしています。スタッフも暖かい雰囲気でお迎えできるように努めています。	コロナ禍での面会は2週間を開けての来訪をお願いしています。家族への電話や手紙での連絡は負担を考慮しながら、毎月アンケート用紙を送り意向を聞き取るようにしています。退去した家族の希望により運営推進会議に参加してもらうことで第三者の視点も大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	言葉の出ない利用者には他の利用者が熱心に声掛けをするなど、利用社同士の係わり合いを大切にしています。スタッフは他入居者とのパイプ役になり、他入居者と会話できるように間をとりもつよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去されたご家族様にボランティアや運営推進会議参加への声掛けを行っています。年賀状等でのご挨拶もさせていただいています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者さんやご家族様のニーズ・希望の変化に対応できるよう、日々の関わりを大切にしています。食べたい物をメニューに採用したり、衣類等の買物も一緒に外出し、本人の意向に沿った買物ができる等の支援をしています。	食べたい物の写真を利用者に見てもらいメニューに取り入れています。衣類や菓子を買いたいとの希望にも職員同行で買い物に行っています。入居者の思いを大切にしながら変化に注意しています。意思表示困難な入居者は今までの様子から考慮した対応を心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様からの情報に限らず、今まで担当されていたケアマネージャーさん、ヘルパーさん、ケースワーカーさん、看護師さん、相談員さん等からも情報収集し、日々のケアの中でも1人ひとりの歴史の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入浴・散歩・レクリエーションはマンツーマンを基本としています。訪問診療時に医師や看護師と情報共有を図ったり薬剤師訪問時には利用者に必ず声掛けしてもらう等心身共に生活の場全体を見ながら現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	コロナウイルスの影響でご家族様が来所された際に時間制限はありますが、ご本人やスタッフとゆっくりと話す時間を設け意見を伺い介護計画を作成しています。	本人や家族、関係機関などからこれまでの生活歴を参考に本人の望む生活の聞き取りを行っています。本人の話す内容や仕草から状況を汲み取り、変化があった時には必ず記録し共有しています。本人や家族に確認しながら、支援方法の見直しや計画の変更を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を介護記録として個別に記録しています。ミーティングや申し送りやスタッフ間で情報を共有し必要なときには話し合いの場を持つことで計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者さんやご家族様のニーズ・希望の変化に対応できるよう、日々の関わりを大切にしています。訪問看護や訪問マッサージ等利用者さんやご家族様の要望があれば柔軟に対応しサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響でボランティアさんに来所していただくのは難しいですが、地域包括支援センター・協力医療病院、薬剤師・近隣住民との協力・連携を行い、その人がその人らしく地域で生活していけるように支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の内科医、歯科医共に2週に1回、訪問診療していただいています。今までのかかりつけ医に継続して診ていただき協力医療機関となっただけ、その医師から訪問薬剤師を紹介していただいた経緯もあります。	協力医療機関の内科医、歯科医は2週間に1回往診しています。入居前のかかりつけ医に受診している人はいませんが選択は可能となっています。家族の付き添いの下、泌尿器科を受診する利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の看護師とは気軽に相談できる関係にあり、電話等でも相談を受け付けてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは連携しており、医師、看護師、相談員共にこまめに連絡がとれる状態です。薬剤師や薬局事務員とも連携を図っており研修にも一緒に参加しました。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時や状況に応じて終末期のありかたについて書面等で説明させていただいています。必要であれば医師から直接ご家族に話をさせていただいており、また近隣の訪問看護ステーションやかかりつけ薬剤師とも連携しています。	重度化や看取りについて、入居契約時に利用者と家族に終末期の在り方について説明して同意を得ています。看取りの経験もあり、近隣の訪問看護ステーションやかかりつけ薬剤師との連携体制もできています。職員の精神面のサポートもしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	コロナウイルスの影響で外部の研修参加は少ないですが、緊急時の対応について常に職員間でも内容について確認し合っています。いざという時のために事務所内に関係機関の連絡先を掲示しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な所内非難訓練を行いスタッフ間でも災害時に対する意識を高く持つよう取り組んでいます。また近隣の方・町内会長さんなどと常にコミュニケーションをはかっており有事の際の協力体制についても申し合わせています。	年2回4月と10月に昼・夜想定 of 避難訓練を職員、利用者で行っています。コロナ禍により今年度も地域の避難訓練は中止になりましたが、町内会長や近隣の住民とのコミュニケーションを取り、有事の際には協力体制の申し合わせもできています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症の方だからではなく利用者さんを人生の大先輩として、一人の人間として尊敬の念を持って対応しています。	入居者には「さん付け」で呼び、敬語で話す事を基本としています。プライバシー、人権擁護・接遇に関する研修も行っており、言葉掛けの方法についても話し合いをしています。入居者の人格を尊重し、理念に沿った支援をしているかを振り返っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コロナウイルスの影響で月に1回のスーパーへの外出は中止していますが、散歩の途中でコンビニに寄り自分の好きなおやつを自分で支払いをして買う、衣類を決めかねる時は二者択一で選んでいただく等自己決定の場面を多く作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴や食事の時間はほぼ決まっていますが他の時間の決まりはなく、昼食後昼寝をされる方、リビングでテレビを見られる方等、各人のペースを大切にできるよう、居室とリビングの使い分けがうまくできるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝鏡に向かう時間をとっています。個々の利用者さんに合わせマニキュアを用意したり、好きな色の洋服をご家族様に用意していただく等の対応をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材はデリバリーの物を使っていますが、もやしのひげ取り、玉ねぎや人参、大根の皮むき等なるべく皆さんに参加していただき可能な方には調理や後片付けをしていただいています。	献立と食材は業者に委託して、レトルト、湯煎の物を利用しています。利用者は刃物や火を使わない野菜の皮むきや配膳、下膳等を職員と行っています。お節、チラシ寿司などの季節の行事食を楽しんでおり、皆でおやつを作る事も楽しみのひとつとなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の際には一つのテーブルに一人スタッフが入り各利用者さんの状態を把握できるよう対応しています。食事量や水分量は記録に残し情報の共有化に努めています。嚥下の悪い方にはとろみやミキサー食、自力摂取の難しい方には介助をする等個々に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後職員が見守りながらマンツーマンで歯磨きをしています。ご自身での歯磨きが難しい方はスタッフが対応しています。入歯の自己管理が難しい方は夜間入歯を預かりスタッフが手入れをしてから保管しています。また2週間に1回歯科往診をしていただいております。口腔内の清潔保持に努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各利用者の排泄パターンを探り、残存機能に働きかける事を基本とし自立支援を行っています。必要な方には時間や様子を見計らって声掛け、誘導、見守りをして、必要な方には居室にポータブルトイレを設置し自立に向けた支援をしています。	入居者の様子や排泄パターンを見ながら排泄の声掛けを行っています。個々の状況に合わせた声掛けや誘導、見守り、出来ない部分の支援をしています。入居者の残存機能に働きかける事で、トイレで排泄することを基本としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や繊維質、水分の摂取を心掛けており、運動のためラジオ体操やテレビ体操、散歩を日課にしています。便秘のひどい方には医師から薬を処方してもらっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には入浴の時間を決めてしまっていますが、その時間に入れなかった方には時間を変更したり、希望のある方には入浴剤を使用するなど個々に応じた入浴の支援をしています。	週2回以上午前中に利用者との会話を大切にしながら1対1で入浴しています。入浴拒否がある人には、昔話などをすることで気分転換を図ったり、時間や曜日を変更して対応しています。菖蒲湯や柚子湯も楽しんでおり、入浴剤を使用する事も可能です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝される時間に差があるので遅い時間にやすまれる方数名でトランプやカルタを楽しんだりテレビを見て過ごしていただいています。また、今まで使用されていた布団や枕を持ってきていただいたり、電気を一晩中点けておかれる方等各利用者さんの意向に沿った支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各個人のファイルに処方された薬の説明書を入れていつでも確認できるようになっています。また、かかりつけ薬剤師も2週に1回来所していただき状態を把握していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	調理、掃除、洗濯物たたみ等できることをやっていただき、それが役割だと感じていただけるよう支援しています。また、散歩の度にコンビニに寄る、町内の花をめぐる等楽しいと感じられることを継続できる生活の支援をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルスの影響で月に1回のスーパーへの外出は中止していますが、散歩、外気浴は天気の良い日は日課となっています。その途中でコンビニに入られる方もいます。ご本人様・ご家族様の希望で外出・外食を支援しています。	全員で庭に出て外気浴をしています。天気の良い日は杖歩行の人や車いすの人も職員と1対1で散歩を楽しんでいます。コンビニエンスストアに立ち寄り職員と買い物もしていますが、コロナ禍の今は中止しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	散歩の途中でコンビニに寄り買い物の際は本人にお財布を持っていただき、その中からお金を出し支払いができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様の希望に応じて電話や手紙、年賀状や季節の挨拶等なるべくご自分で書いたりかけたりしていただけるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	民家改修型なので自宅に居るような雰囲気は十分にあると思います。リビングには季節のタペストリーやカレンダーを貼り、トイレドアには日めくりを掛け、庭には植木や花があり生活感や季節感を味わっていただけるよう努めています。	居間は午前中を清掃の時間とし、温度・湿度・換気にも配慮しています。居間の壁面には季節のタペストリーやカレンダーを飾っています。トイレのドアにも日めくりカレンダーを掛け、利用者が「今日は何日か」を確認できるように工夫しています。庭に植えてある山茶花・金木犀の花の香りも、入居者の楽しみになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングには定位置がありますが必ずそこに座らなければいけないわけではなく思い思いに過ごせるよう支援しています。一人がお好きな方には居室とリビングの使い分けを支援しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使っていたタンスや私物を置いてもらっており、布団や枕も使い慣れた物を持ち込んでもらっています。レクリエーションで作った物やご家族の写真を飾っている方もいらっしゃいます。	居室はベッド、布団一式、エアコン、防災カーテンなどを備え付けています。入居者は自宅で使用していたタンスや仏壇、テレビ、イスを持ち込んでいます。思い出の品や家族の写真を自由に飾り、本人が居心地よく過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各所に手摺りを設置しています。必要な方にポータブルトイレを置く等しています。トイレの扉には「トイレ」の表示や居室の扉に名前の表示をしています。階段昇降機も設置しています。		

事業所名 グリーンペペ
作成日： 2022年 5月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍で運営推進会議兼身体拘束廃止委員会の開催ができていない	運営推進会議兼身体拘束廃止委員会を開催する開催	コロナウイルスの流行の様子を見ながら各委員へ開催案内を送付し運営推進会議兼身体拘束廃止委員会を開催する	6ヶ月
2		アンケートよりご家族様の中で医療面での不安があるとの回答があった	ご家族様の医療面での不安を少しでも取り除く	訪問診療時にご家族様に来所いただき協力医や看護師、薬剤師等とご家族様が直接話す機会を作る	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月